-メンテナンスガイド-

Maintenance Guide

Gasoline

自家用軽貨物車

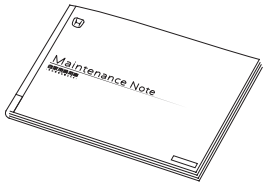
はじめに

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

メンテナンスガイドには、お客様に安全で快適なカーライフを楽しんでいただくために、自動車の標準的な使用を前提として「日常点検」および「定期点検」の実施方法と、その結果必要となる整備について記載してあります。

クルマは走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー（運転者）として点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。
日常点検については、お客様ご自身で実施可能な項目となっていますので、本書をご覧になっていただきぜひ実施してください。また、その他の点検整備については、お買い上げのHonda販売店へお気軽にご相談ください。

メンテナンスノート



・保証書
・日常点検整備の記録
・定期点検整備記録簿

日常点検の記録については車両に備え付けられているメンテナンスノートをご活用ください。

本書をお読みになる前に

本書では安全に関することなどを次の表示を使って説明しています。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。
これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

知 識
知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なこと

目次

1. 日常点検整備

■1 点検項目と点検順序 ……4

■2 点検整備のしかた……6

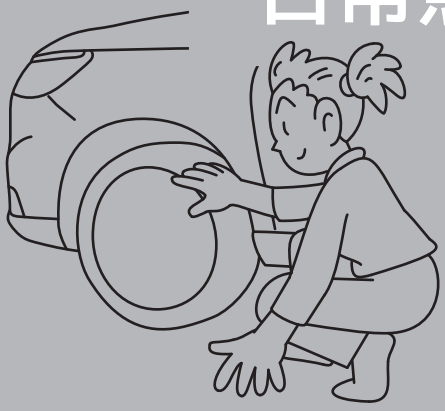
2. 点検整備について

■3 点検整備方式の見方 …… 16

■4 シビアコンディションについて…… 17

■5 点検整備方式/定期交換項目…… 18

日常点検整備

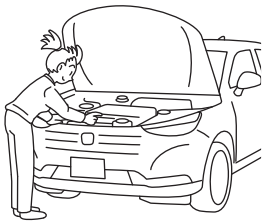


1 点検項目と点検順序

日常のクルマの使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。日常点検は本書に掲載されている日常点検の実施方法にしたがって行い、車両に備え付けられている「メンテナンスノート」に結果を記入します。

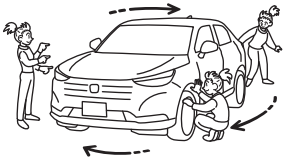
1 運行において異状が認められた箇所

2 ボンネットを開いて



①ブレーキ液の量
②12Vバッテリ液の量
③エンジンオイルの量
④ウィンドウォッシャー液の量
⑤冷却水の量

3 車のまわりを回りながら



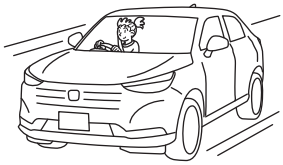
⑥ヘッドライト、制動灯などの点灯、
　汚れ、損傷
⑦タイヤの状態

4 運転席に座って



⑧パーキングブレーキレバーの引きしろ
　(ペダルの踏みしろ)
⑨エンジンの始動状態、異音
⑩ブレーキペダルの踏みしろ
⑪ウィンドウォッシャー液の噴射状態
⑫ワイパーの拭き取り状態

5 走行して



⑬ブレーキのきき具合
⑭低速、加速の状態

2 点検整備のしかた

⚠警告

- 点検整備は確実に行い、異常が認められたときは必ずHonda販売店で点検整備を受けてください。適切な整備がされていないと、思わぬ事故につながります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。車内に排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- 点検整備をするときは、安全のため次のことを必ず守ってください。
  - ・水平で安全な場所で行ってください。
  - ・静止状態で行うときは、パーキングブレーキをかけたり輪止めをするなどして車が動かないようにしてください。
    また、エンジンは必要なとき以外は停止してください。
  - ・走行して点検するときは、周囲の交通事情に十分注意してください。
  - ・車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使ってください。
    (パンタグラフジャッキは、タイヤ交換時にのみ使うものです。)
- 取り出した部品はエンジンルーム内に置かないでください。エンジンルーム内に落としたりして、思わぬけがをすることがあります。
- エンジンルーム内の点検や整備は、エンジンの高熱部や自動的に回転しだす冷却ファンに十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

- ●油脂、液類を補給するときは、次のことをお守りください。
  - ・指定外のものや粗悪品を使ったり、銘柄やグレードの違うものを混用しないでください。
  - ・ゴミなどが入らないようにしてください。
  - ・上限(MAX)を越えないようにしてください。
  - ・オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。
    冷却水をこぼしたときは、塗装面をいためないようにすぐに水で洗い流してください。
- ●指定油脂類、推奨オイルや粘度による使いかたおよび規定量や点検整備基準値については取扱説明書を参照してください。

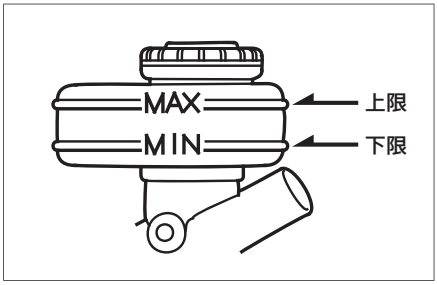
1. 運行において異状が認められた箇所

運行に支障がないかを点検します。

2. ボンネットを開いて

① ブレーキ液の量

リザーブタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。



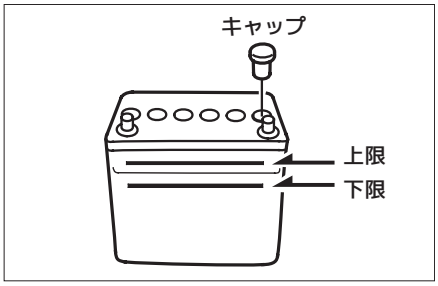
液面が下限より下がっていたらただちにHonda 販売店へご連絡ください。

知 識

- ●リザーブタンクの液量は、ブレーキパッドの摩耗と共に徐々に減少しますが、異常ではありません。液の減りかたが著しいときや、下限より下がっているときはブレーキ系統の液漏れなどが考えられ、この場合正常なブレーキ力が得られなくなるおそれがあります。

② 12Vバッテリ液の量

12V バッテリの液面が各槽とも上限と下限の間にあるかを目視により点検します。



メンテナンスフリー 12V バッテリはインジケーターでも点検ができます。密封式 12V バッテリでは、液面の点検の必要はありません。

補給のしかた

12V バッテリ液が不足している場合は、キャップを回して外し、各槽とも上限まで 12V バッテリ補充液(蒸留水)を補給します。
補給後はキャップを確実に締め付けます。

知 識

●12Vバッテリ液が不足しているときは、使用しないでください。
12Vバッテリ内部の劣化の進行が促進するおそれがあります。

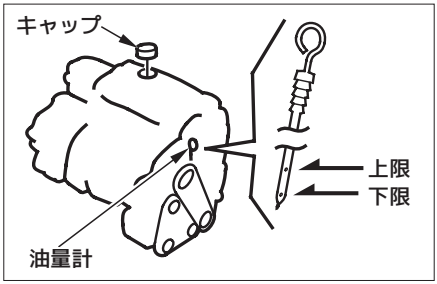
⚠警告

●12Vバッテリを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。12Vバッテリから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
- 火気を近づけないでください。
- 帯電した体で12Vバッテリに触れないでください。
- 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
- 12Vバッテリの液面が下限以下で使わないでください。
- 端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
  取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
- 端子部にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。
- 12Vバッテリを清掃するときは、乾いた布などを使わないでください。また、ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤を使わないでください。

●12Vバッテリ液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

③ エンジンオイルの量

エンジン始動前か、エンジン停止後３分以上たってから、エンジンオイルの量が油量計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。水平な場所に停車して点検してください。点検は、油量計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びいっぱいに差し込み、もう一度抜いてオイルの量を見ます。



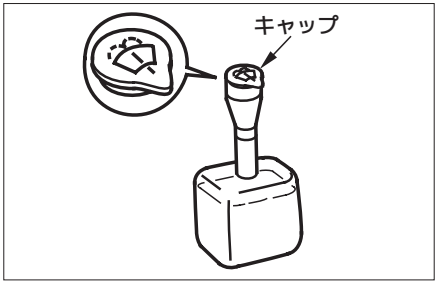
補給のしかた

オイルの量が下限に近くなったらキャップを回して外し、油量計で確かめながら上限まで補給します。補給後、キャップは確実に締め付けます。

補給がすんだらエンジンをかけ、1 分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3 分以上たってから再度、油量計で確かめます。

④ ウィンドウォッシャー液の量

ウォッシャータンク内のウォッシャー液の量を点検します。



レベルゲージのついている機種はレベルゲージで点検します。

補給のしかた

ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水で薄めます。

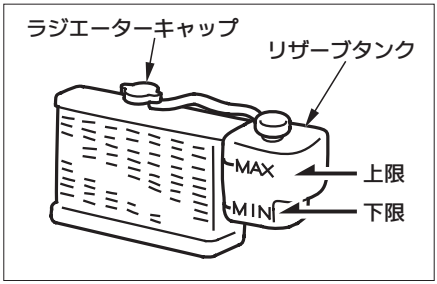
レベルゲージのついている機種はレベルゲージで量を確認しながら補給します。

知 識

- "Hondaウォッシャー液"には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。

⑤ 冷却水の量

ラジエーターリザーブタンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。



補給のしかた

液面が下限より下がっていたらリザーブタンクのキャップをはずし、タンクの上限(MAX)まで補給します。指定液を規定濃度に薄めるときは、上水道(軟水)で薄めてください。

液面は暖機時に上り、冷機時に下りますがエンジン温度に関係なく上限(MAX)まで補給します。
リザーブタンクに冷却水がないときはラジエーターにも補給します。ラジエーターキャップを回して外し、ラジエーターの口元まで冷却水を補給します。

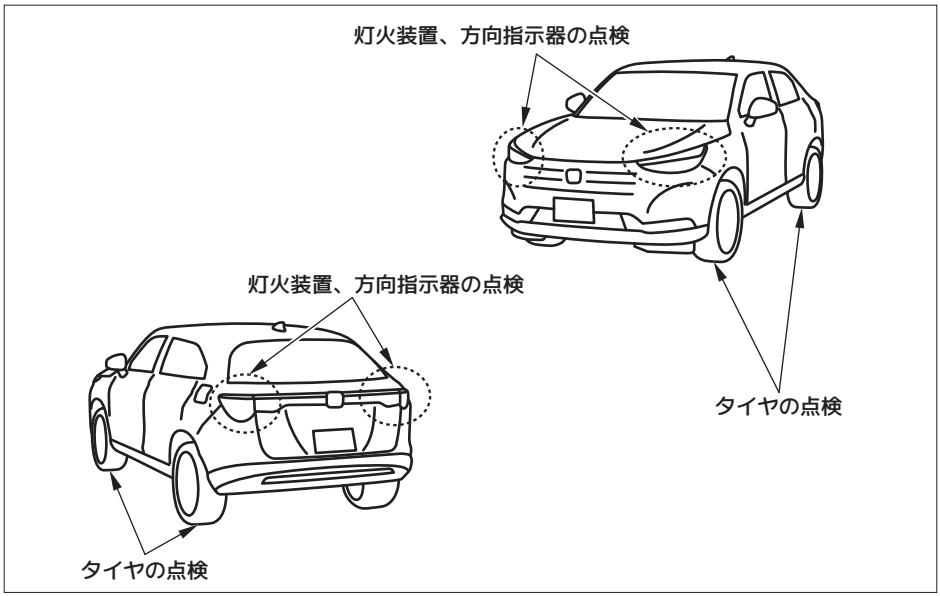
⚠警告

- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害に至るおそれがあります。

知 識

- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。
  必ずHonda販売店で点検を受けてください。

3. 車のまわりを回りながら



⑥ ヘッドライト、制動灯などの点灯、汚れ、損傷の状態

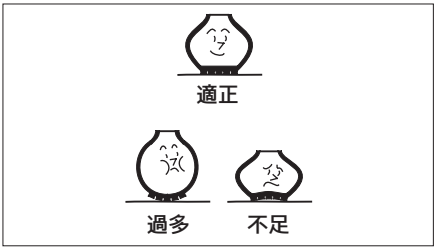
POWER モードを ON モードにし、
・ヘッドライト Low / Hi など
・車幅灯　・尾灯
・番号灯　・後退灯
・方向指示器
などを作動させて、正常に点灯または点滅するかを点検します。
このとき、レンズに汚れや損傷がないかも確認します。

ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点灯するかを点検します。
点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

⑦ タイヤの状態

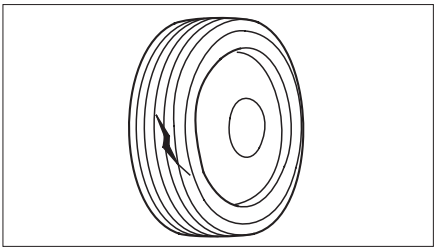
●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。
また、タイヤが冷えているときにタイヤゲージで空気圧を点検します。



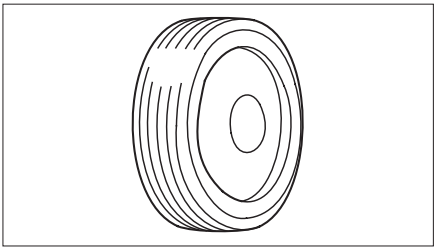
●亀裂、損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないか、また、クギや石などがささったり、かみ込んだりしていないかを目視により点検します。



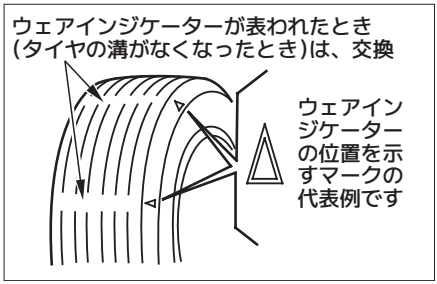
●異状な摩耗

タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視により点検します。



●溝の深さ

タイヤの接地面に表示されているウェアインジケーター（摩耗限度表示）またはディプスゲージ(またはノギス)により溝の深さが 1.6mm 以上あるかを点検します。ウェアインジケーターが表われたり、タイヤの溝の深さが 1.6mm 以下になったときは、タイヤを交換してください。
タイヤサイズに LT 表示のある車は、80km/h 以上の高速走行する場合、溝の深さが 2.4mm 以上あるかディプスゲージ(またはノギス)で確認してください。2.4mm 未満のときは高速走行しないでください。



知 識

- ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm だけ浅くなっています。
- タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。

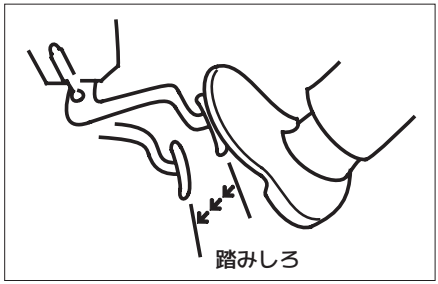
4. 運転席に座って

⑧ パーキングブレーキレバーの引きしろ（ペダルの踏みしろ）

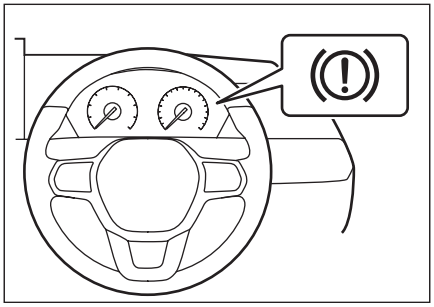
●レバー式
レバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて{約 196N(20kgf)の力 }、規定ノッチ数の引っかかり音(カチカチ音)でレバーがロックするかを点検します。



●足踏み式
ブレーキを完全に解除した状態からゆっくり踏んで {約 294N（30kgf)の力 }、規定ノッチ数の引っかかり音(カチカチ音)でペダルがロックするか点検します。



●電動式(電子制御パーキングブレーキ)
パワーモードが ON モードの状態で、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除したときに、メーターにブレーキ警告灯及びブレーキシステム警告灯が点灯もしくは点滅していないことを点検します。
警告灯のデザインは取扱説明書をご確認ください。

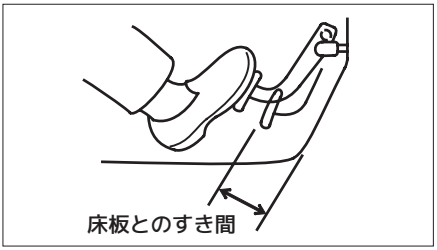


⑨ エンジンの始動状態、異音

取扱説明書にしたがってエンジンを始動させ、エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
また、エンジン始動時や、アイドリング状態で異音がないかを点検します。

⑩ ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、2 ～ 3 回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く{約196N(20kgf)の力}5 秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。

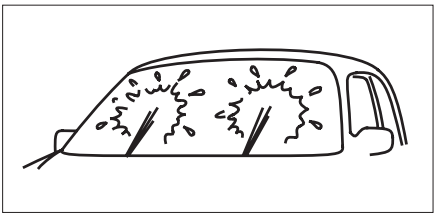


知 識

●ブレーキペダルを踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときブレーキペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。
ただちにHonda販売店へご連絡ください。

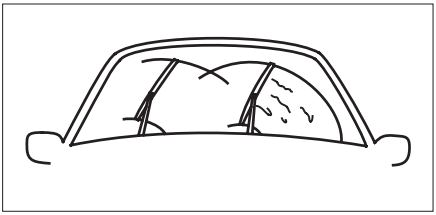
⑪ ウィンドウォッシャー液の噴射状態

POWER モードを ON モードにし、ウィンドウォッシャーを作動させて、液の向きや高さが異状でないかを点検します。



⑫ ワイパーの拭き取り状態

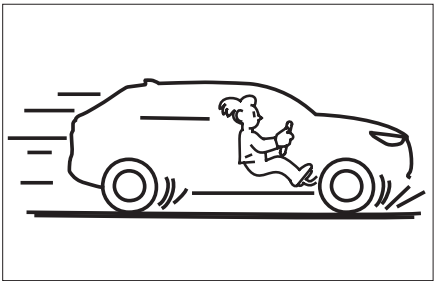
POWER モードを ON モードにし、ワイパーを連動させて、低速、高速の作動や拭き取り状態が異常でないかを点検します。



5. 走行して

⑬ ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行してブレーキペダルを踏み込んだとき、ブレーキのききが得られ、進行方向にまっすぐ止まることができるか点検します。



⑭ 低速、加速の状態

アクセル・ペダルを徐々に踏み込んだときペダルに引っ掛りがないか、また、スムーズに加速するかを走行するなどして点検します。

点検整備方式の見方

この表の点検整備時期は標準的な使用(1年で10,000km程度走行する車両を対象)を前提に定めてあります。従って、走行距離が普通より著しく多い場合は、この時期より早めに点検整備をすることが必要です。また、シビアコンディション(厳しい使われ方)で使われた場合は通常よりも早めに点検整備を行っていただく項目があります。

(例)

点検整備項目	点検整備時期						備考
	新車時点検		自家用				
	1か月	6か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
ブレーキ・パッドの摩耗				◇	◆	◆	◇条件：A、B、C
ブレーキ・ディスクの摩耗、損傷					◇	●	◇条件：A、B、C
タイヤの状態		○	●		◆	◆	
		②	②	③		①	

①「●」印と「◆」印は、法律で定められている点検時期を示します。
「◆」印は、その項目を前回点検した日(初回の点検時は車を登録した日)からの走行距離が年間で5,000km以下の場合、点検整備を行わなくてもよい項目を示します。ただし、点検を実施しない場合、次回は必ず点検を実施しなければなりません。
②「○」印と「◇」印は、Hondaが指定・お勧めしている点検時期を示します。
③「◇」印はシビアコンディション(厳しい使われ方)で使われた場合は通常よりも早めに点検整備を行っていただく項目を示します。
シビアコンディション条件については、次ページをご覧ください。

シビアコンディションについて

シビアコンディション(厳しい使われ方)で使われた場合の点検整備

標準的な使用条件と著しく異なる使用をされる場合は、部品の劣化度合が標準的な使用の場合とは異なってくることがあります。このため、次に示すような厳しい使われ方をした場合は、通常よりも早めに点検および交換を行ってください。

シビアコンディション条件

A	● 悪路(デコボコ道、砂利道、未舗装路)での走行が多い 悪路の目安 ・運転者の体に衝撃(突き上げ感)を感じる荒れた路面 ・石をはね上げたり、わだち等により下廻りを当てたりする機会の多い路面 ・ホコリの多い路面 ● 雪道での走行が多い
B	● 走行距離が多い (目安：20,000km以上/年)
C	● 山道、登降坂路での走行が多い (目安：登り下りが多く、ブレーキの使用回数が多い)
D	● 短距離の繰返し走行が多い (目安：8km以下/回) ● 外気温が氷点下での繰返し走行が多い
E	● 低速走行が多い場合 (目安：30km/h 以下) ● アイドリング状態が多い場合

目安としては上記のいずれかの条件での走行が、走行距離の約30%以上の場合、シビアコンディションに該当します。

点検整備方式/定期交換項目



・点検整備方式
・定期交換項目
・車載式故障診断装置の診断について

点検整備について

点検整備方式							
点検整備項目		点検整備時期					備考
		新車時点検	自家用				
		1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
ステアリング装置	ハンドルの操作具合					●	
	ステアリングギアボックス取付の緩み				◇	◆	◇条件：A・B・C
	ステアリングのロッド、アーム類の緩み、がた、損傷					◆	
	ロッド、アーム類のボールジョイントのダストブーツの亀裂、損傷				◇	●	◇条件：A・B・C
	ホイールアライメント					◆	
	パワーステアリングベルトの緩み、損傷	○			●	●	電動式は点検不要
	パワーステアリングのオイルの漏れ、量					●	電動式は点検不要
	パワーステアリングの取付の緩み					◆	
ブレーキ装置	ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間				●	●	
	ブレーキペダルの踏みしろ		●				
	ブレーキのきき具合	○			●	●	
	パーキングブレーキレバーの引きしろ（ペダルの踏みしろ）	○	●		●	●	電動式は点検不要
	パーキングブレーキのきき具合				●	●	
	ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取付状態	○		◇	●	●	◇条件：A・B・C
	ブレーキ液の量		●				

点検整備について

点検整備方式							
点検整備項目		点検整備時期					備考
		新車時点検	自家用				
		1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
ブレーキ装置	ブレーキのマスタシリンダ、ホイールシリンダ、ディスクキャリパの液漏れ				●	●	
	ブレーキのマスタシリンダ、ホイールシリンダ、ディスクキャリパの機能、摩耗、損傷					●	
	ブレーキドラムとライニングとのすき間				◆	◆	
	ブレーキシューの摺動部分、ライニングの摩耗			◇	◆	◆	◇条件：A・B・C
	ブレーキドラムの摩耗、損傷				◇	●	◇条件：A・B・C
	ブレーキディスクとパッドとのすき間				◆	◆	
	ブレーキパッドの摩耗			◇	◆	◆	◇条件：A・B・C
	ブレーキディスクの摩耗、損傷				◇	●	◇条件：A・B・C
走行装置	タイヤの状態		●		◆	◆	
	ホイールのボルト、ナットの緩み				◆	◆	
	フロントホイールベアリングのがた					◆	
	リヤホイールベアリングのがた					◆	
サスペンション	サスペンションの取付部、連結部の緩み、がた、損傷				◇	●	◇条件：A・B・C
	ショックアブソーバの損傷、オイルの漏れ					●	

点検整備について

点検整備方式							
点検整備項目		点検整備時期					備考
		新車時点検	自家用				
		1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
動力伝達装置	クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間				●	●	オートマチック車は点検不要
	トランスミッション、トランスファのオイルの漏れ、量				◆	◆	「レベルゲージが無い方式の自動変速機」は油漏れ点検にて油量点検を代用
	プロペラシャフト、ドライブシャフトの連結部の緩み				◆	◆	
	ドライブシャフトのユニバーサルジョイント部のダストブーツの亀裂、損傷				◇	●	◇条件：A・B・C
	デファレンシャルのオイルの漏れ、量					◆	
電気装置	スパークプラグの状態				◆	◆	白金プラグ／イリジウムプラグは点検不要
	点火時期	○			●	●	無調整式は点検不要
	ディストリビュータのキャップの状態				●	●	ディストリビュータ無しは点検不要
	バッテリ液の量		●				密閉式は点検不要 12Vバッテリのみ
	バッテリのターミナル部の緩み、腐食				●	●	12Vバッテリのみ
	電気配線の接続部の緩み、損傷					●	12Vバッテリのみ

点検整備について

点検整備方式							
点検整備項目		点検整備時期					備考
		新車時点検	自家用				
		1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
原動機	エンジンのかかり具合、異音		●				
	低速、加速の状態	○	●				
	排気ガスの状態				●	●	
	エアクリーナエレメントの汚れ、詰まり、損傷			◇	◆	◆	◇条件：A・B・C
	エンジンオイルの漏れ				●	●	
	エンジンオイルの汚れ、量		●				
	燃料漏れ	○			◇	●	◇条件：A・B・C
	冷却水の量		●				
	オルタネータベルトの緩み、損傷				●	●	
	冷却水の漏れ				●	●	

点検整備について

点検整備方式							
点検整備項目		点検整備時期					備考
		新車時点検	自家用				
		1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置	メターリングバルブの状態					●	
	ブローバイガス還元装置の配管の損傷					●	
	燃料蒸発ガス排出抑止装置の配管等の損傷					●	
	チャコールキャニスタの詰まり、損傷					●	
	燃料蒸発ガス排出抑止装置のチェックバルブの機能					●	
	触媒等の排出ガス減少装置の取付の緩み、損傷					●	
	二次空気供給装置の機能					●	
	排気ガス再循環装置の機能					●	
	減速時排気ガス減少装置の機能					●	
	一酸化炭素等発散防止装置の配管の損傷、取付状態					●	

点検整備について

点検整備方式						
点検整備項目	点検整備時期					備考
	新車時点検	自家用				
	1か月	日常点検	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	
ヘッドランプ、ストップランプ、ウィンカランプ等の作用		●				
ウィンドウォッシャーの噴射状態		●				
ワイパーの拭き取り状態		●				
ウィンドウォッシャー液の量		●				
エキゾーストパイプ、マフラの取付けの緩み、損傷、腐食				◆	◆	
マフラの機能				◇	●	◇条件：D・E
フレームの緩み、損傷					●	
運行において異状が認められた箇所に異状がないことを確認		●				
車載式故障診断装置(OBD) の診断の結果				●	●	

ブレーキホース交換についてのお願い

ブレーキホースは、保安上重要なゴム部品です。長期間使用するにつれ、疲労や劣化が避けられません。特に内部からの劣化は判定困難なため、長期間使用したものは5年から7年を目安に交換してください。

車載式故障診断装置(OBD)の診断について

POWERモードをOFF→ONしたときに、メーター内の下記の警告灯が点灯後、消灯することを確認してください。
消灯しない場合は必ずHonda販売店で点検を受けてください。

※機種により警告灯の表示が異なります。
　どの表示がされるかは取扱説明書を参照してください。

警告灯の種類	表示
PGM-FI警告灯	
ブレーキ（システム）警告灯	
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	
エアバックシステム警告灯	
安全支援情報警告灯	 または 
LKAS（車線維持支援システム）警告灯	LKAS または 

定期交換項目

走行距離と交換時期を併記している油脂類は、そのどちらか早い方で交換します。
スパークプラグ、エアクリーナエレメントなどの仕様については、取扱説明書を参照してください。

※【】条件（シビアコンディション）については17ページをご覧ください。

項　目		交換時期	備　考
エンジンオイル	ターボ 非装備車	10,000kmごとまたは1年ごと 【5,000kmごとまたは6か月ごと】	【 】条件 A・C・D・E
	ターボ装備車	5,000kmごとまたは6か月ごと	
エンジンオイル フィルタ	ターボ 非装備車	20,000kmごとまたは2年ごと 【10,000kmごとまたは1年ごと】	【 】条件 A・C・D・E
	ターボ装備車	10,000kmごとまたは1年ごと	
オートマチック トランスミッ ションオイル	CVT車	50,000 kmごと 【40,000kmごと】	【 】条件 A・B・C・E
マニュアルトランスミッション オイル		【80,000kmごと】	【 】条件 A・C
デファレンシャ ルオイル	4WD車	【60,000kmごと】	【 】条件 A・C
トランスファ オイル	4WD車	初回 80,000km 以降60,000kmごと 【40,000km】	【 】条件 A・C
スパークプラグ	白金・イリジ ウムプラグ	70,000kmごと	
エアクリーナ エレメント	湿式	50,000 kmごと 【25,000kmごと】	【 】条件 A・C・E
ブレーキ液		2年ごと	
冷却水		初回は200,000kmまたは10年、 以降は120,000kmごとまたは6年ごと	



©2025 本田技研工業株式会社